

安全で機能的な建築金物を提案し 顧客の快適な生活を支えたい

手摺・庇・ルーバーといった建築金物一式の製造から販売、施工までを手掛けている『デフプラン』。江田社長は、安全性や機能性を重視しつつ、一つひとつの建物に最適な金属工事を行うことをモットーとし、多くの顧客はもちろん、設計士からも厚い信頼を得ている。本日は島崎俊郎氏が同社を訪問し、社長の仕事に懸ける想いなどについてインタビューを行った。

10代から幅広い仕事を経験後 建築金物業界で腕を磨き独立する

——『デフプラン』さんでは、建築金物、金属工事業を手掛けておられるとか。具体的にはどういった業務を行っておられるのですか。

アルミ・ステンレス・スチール製の手摺や庇といった建築金物の製造から販売、施工を一貫して手掛けています。現場は相模原を中心に、首都圏が多く、こ

れまでには養護施設の外壁に取り付ける建築金物の製造や、保育園の階段に手摺を取り付ける作業などを任せていただきました。保育園の手摺は木製のため、大工さんがつくられまして、当社ではその手摺を壁に取り付けるための金具を加工しました。そんな風に、色んな建築業者さんと協力しながら、お客様が理想とする建物づくりに関わっているんですよ。——なるほど。一口に建物といっても、一つひとつ構造が異なりますし、高い技

術力が要されそうですね。江田社長は長くこの業界を歩んでこられて？

ええ。この道、18年ほどになります。若いころから早く社会に出て働きたいという気持ちが強く、学業修了後は防水工事業、飲食店の店長、トラックドライバーなど様々な仕事を経験してきました。そして20代半ばで、現在と同業を手掛ける姉の義父からお声掛けいただき、働き始めたのが、この業界に入ったきっかけです。そちらは地震対策として建物同士



代表取締役

江田 克紀

東京都荒川区出身。若いころから社会に出て働きたいという気持ちが強く、10代から防水工事業や飲食店の店長など、様々な仕事を経験した。20代半ばで建築金物業を手掛ける親類の会社に入社。15年ほど金属工事の腕を磨いた後、独立し、2017年5月に『デフプラン』を設立した。周囲の支えを受け、堅調に成長を続けている。



株式会社 デフプラン

【事務所】 神奈川県相模原市中央区田名 6011-3

URL : <http://www.defplan.net>



“人”を中心に据えた企業

誰よりも使う人のことを考え、どんな困難な注文にも全力で取り組んで、突破口を開くなど、常に努力を怠らない江田社長。そんな社長の人を想う気持ちは、『デフプラン』の4つの企業理念にも表れている。

同社では、「1. 金属を通し、地域、社会、人に信頼される企業を目指します。」「1. 人と社会が成長できる、企業経営を目指します。」「1. 一人一人が夢と誇りを持てる企業を目指します。」「1. 人を大切に豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を理念に、事業を推進。中

でも特に注目したいのが、いずれの理念にも“人”が存在している点だ。同社では安全で機能的、高性能な商品の追求によって使う人の心地よさを生み出そうとしていることをはじめ、自社の社員も仕事を通じて成長でき、やりがいをもって働ける企業風土の実現しようとするなど、常に“人”の笑顔や満足感をつくり出そうとしている。そして事業を通じ、豊かな社会づくりに貢献していこうとしている同社。こうした人を想う経営こそが、同社を「多くの人々から必要とされる企業」にしているのだろう。

の接合部分に用いる金属製品の専門会社で、15年ほど金属工事に関する腕を磨きました。そうした日々の中、より自分が理想とする働き方がしてみたいという気持ちが強まっていきまして。勤務先の社長から背中を押していただいて独立し、昨年5月に当社を設立した次第です。

■ 周囲の支えで堅調に歩み出し 人材育成にも注力していく

——長く経験を積まれたとはいえ、独立後に不安はありませんでしたか。

前職場の仕事を持っていくつもりはなく、ゼロからのスタートでしたから、とても不安でしたね。ただ、こちらからは一切営業していませんが、ありがたいことに、前職場でお付き合いさせていただいていたお客様のほうから「仕事を任せたい」とお声掛け下さりまして。前職場の社長も、私の独立前から「お前の顧客はきっとお前のところに来てくれるだろう」と言って下さっていましたから、ありがたきお引き受けし、スタート当初から順調に歩んでくることができました。

——優れた技術力はもちろん、普段から周囲の方と良好な関係を築かれていたからこそ、声が掛かったのでしょうか。また、

前職場の社長は懐の大きい方ですね！

私もそう思います。前職場の社長から学ばせていただいたことはたくさんあり、それは今でも私の財産となっています。たとえば、人の使い方。社長は厳しく指導する一方で、私を信頼してできる仕事は積極的に任せて下さいました。当時、社長は口ではおっしゃいませんでしたが、「社員の責任は自分が取る」という覚悟で、私に仕事を任せて下さっていたのでしょ。

——江田社長も、そういった指導を自社の社員さんにしておられて？

ええ。二人いる社員のうち、一人は前職場の下請けだった職人で豊富な経験があり、信頼して積極的に仕事を任せています。もう一人の社員はこの業界に入ったばかりですから、力量を見つつ、徐々に任せていければと考えています。

——今後の成長が楽しみな社員さんもういらっしゃるようですし、社長もますます経営に力が入りますね！

そうですね。お陰様で新規営業はまだまだ掛けられないくらい仕事をいただいていますので、目下、人材育成に力を入れていこうと考えています。この仕事は人の手が不可欠ですが、人材不足が問題となっています。加えて、金属工事は覚

えることが多く、経験を要する仕事なので、一人前になるまでしっかりとサポートしていきたいですね。

——頼もしいですね！

私は建築は生き物だと思っているんですよ。と言うのも、当社は基本的に設計士さんが考えたデザインや仕様に沿って製品をつくり、納めています。実際に建物に取り付けた際は、事前に分からなかった問題が出てくる場合があります。そこで私共で対策を考え、設計士さんに「こう加工しようと思います」と提案するなど臨機応変な対応が必要とされるんです。その場合、利用者目線に立った安全で機能的な加工であることが必須。それには経験と技術を要しますからじっくりと育て上げていこうと思います。

——ぜひ、社長の技術力を後進に継承し、私たちの快適な生活を支えていただきたいです。最後に今後の目標を伺います。

10年後には年商10億円を超える会社になることを目標にしています。現在、私は42歳で、20年後には通常なら定年でしょう。20年かけて何かをやるのではなく、足早ながらもしっかりと経営基盤を固めた会社となるには10年の節目を目標に頑張っていきたいです。

(取材／2018年7月)

After the Interview

島崎 俊郎

「前職場の社長に倣って、人材育成に注力したり、良好な関係を築いておられたお客様から仕事を請けたりするなど、江田社長は仕事での一期一会を大切に、しっかりとご自身の糧にしておられる印象を受けました。ぜひ今後も、多くのお客様、取引先、協力業者など色んな方と出会いながら、会社を発展させていって下さいね！」

